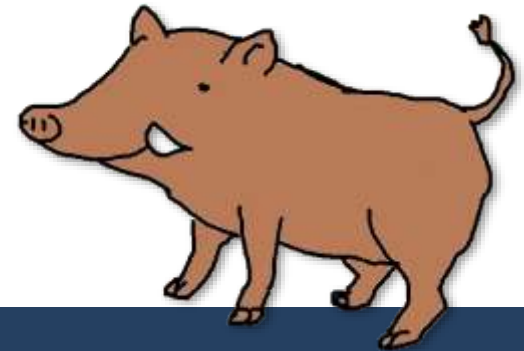


野生動物の生態と対策

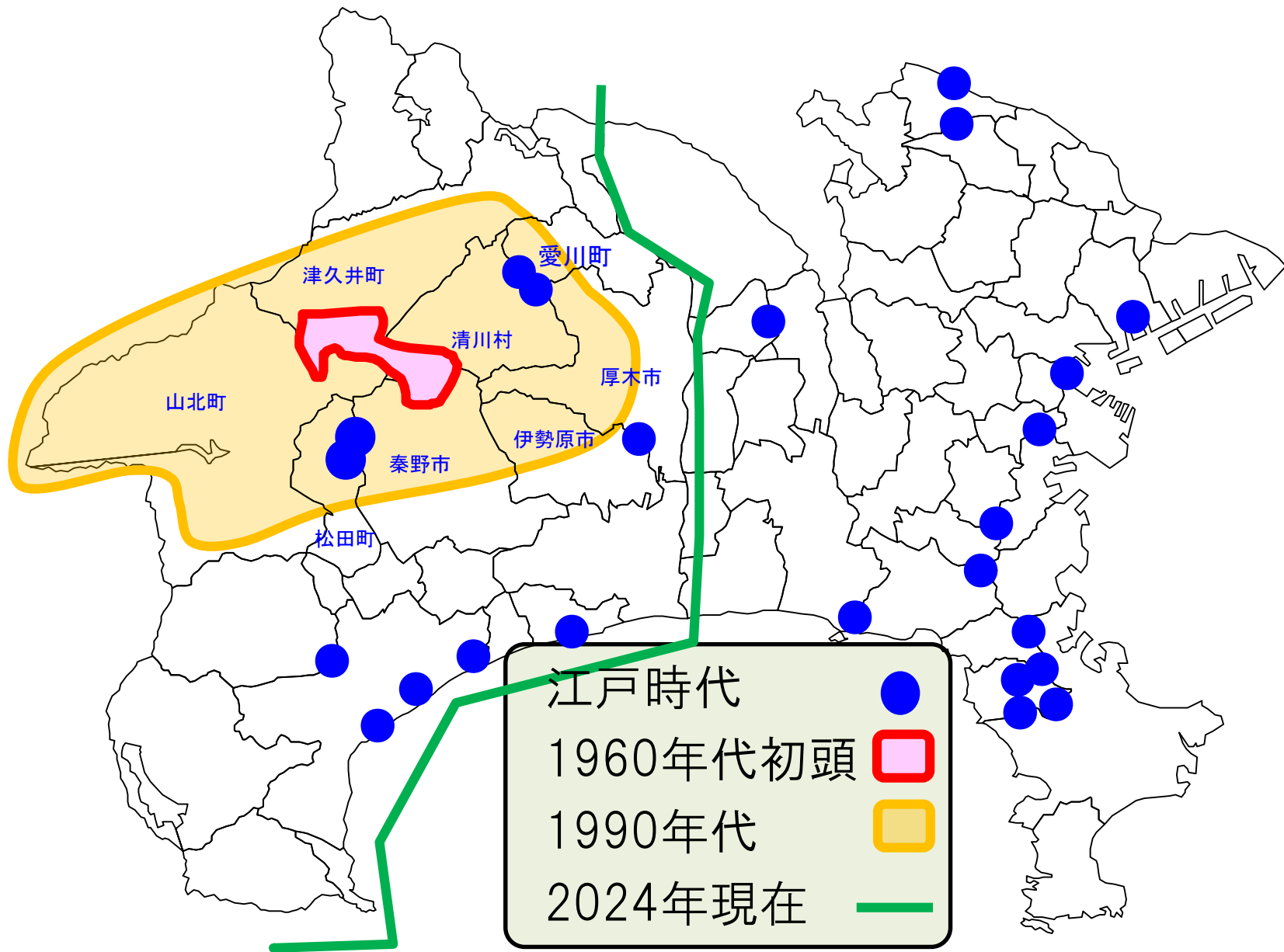


かながわ鳥獣被害対策支援センター

被害対策の良くある誤解



神奈川県におけるシカの分布



山地の徹底的な利用

戦後まで人間の生活域は山側に大きく入り込んだ
⇒動物は奥山に追いやられた



- ・カヤ場
- ・薪炭林
- ・食料増産のための畑開墾

現在の県立秦野戸川公園付近から見た昭和30年代の表丹沢
(丹沢大山学術調査報告書; 1964)

被害を減少させるためには…

- ・鳥獣との棲み分けをしたい
- ・鳥獣の数を減らしたい、
増やしたくない

なぜ増えたのか？

なぜ増えたのか？

増えるためには何が必要か

・エサ = 食
 ・すみか = 住

} 2つ揃うと
 増える

里地・市街地で
エサとすみかがある

対策の3本柱

環境管理

集落の環境改善
ねぐらをなくす

農地管理

農地を囲う
効果的な柵

・バランス良く
・継続する

個体数管理

追い払い

被害が少なくなるまで捕獲する

野生動物被害対策

- 1 エサをやらない**
 - 2 すみか、ひそみ場をなくす**
 - 3 悪い個体を捕獲する**
- +**
- 追い払い**

すべての鳥獣に共通する行動特性

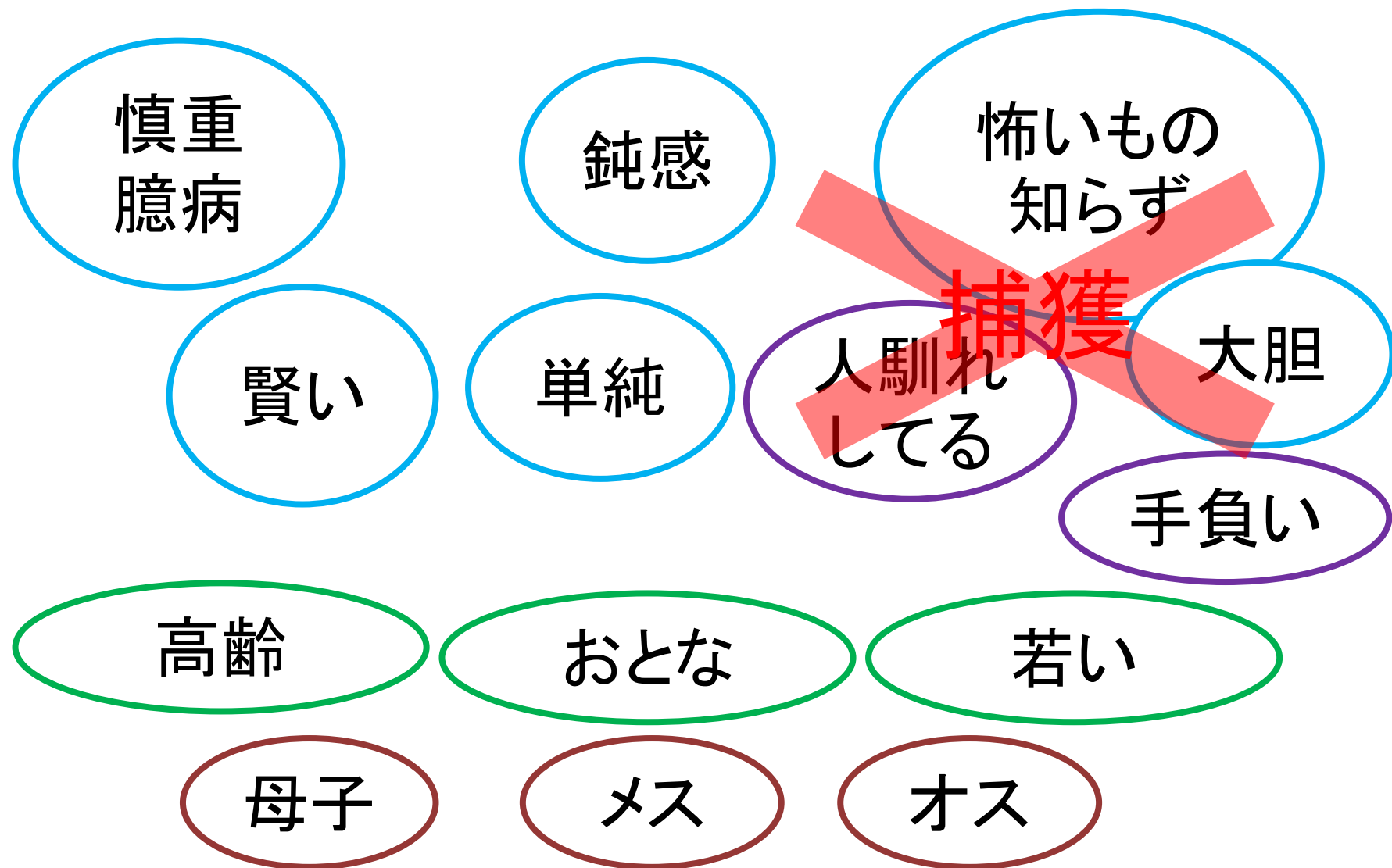
本能的に忌避するものはない。

ただし見慣れないものを警戒するため
その結果、「避ける」といった行動をとる
ことがある。危険がないとわかれば全く
気にしなくなる。

学習する	⇒なれる
------	------

野生動物による被害対策の考え方

- 個体それぞれ性格異なる⇒**行動に影響**



超音波

音

天敵

忌避材

におい

嫌いなもの

ピカピカ

本能的に

唐辛子

怖がるもの

よくある鳥類の誤解

▪ 視力

→ 視力は人並みかやや優れている程度。

ただし見える色は4原色である。(紫外線が見える)

▪ 聴力

→ 聴力は人よりやや劣る。

(人に聞こえない超音波は鳥にも聞こえない)

▪ 嗅覚

→ 嗅覚は人並み。たいして鋭くない。